



## 利根山光人生誕100年・記念美術館開館25周年記念事業

### 記念企画展Ⅰ 2021年7月3日(土)~9月2日(木)

#### 特別展「鹿踊(ししおどり)とメキシコのまつり」

(会場：北上市立博物館多目的室、特別展観覧料は無料)

2021年は利根山光人記念美術館にとって特別の年となった。画伯の生誕100年・当館開館25周年、そしてこの企画展が開館以来50回を数える記念展となる。奇しくも北上市の周年事業と機を同じくして当館も3大アニバーサリーの年となる。その記念企画展の象徴となるのが「阿吽」という一対の油彩大作である。

1984年、新潟県佐渡島に渡った画伯は現地の祭りに興味を示し、翌年、民俗芸能をテーマにした版画展を開催した。佐渡は木版画が盛んな版画王国として知られており、オープンしたばかりの「佐渡版画村美術館」での版画展であった。展示された「佐渡の獅子」という作品がこの大作「阿吽」制作のきっかけと言われている。一点



当地初公開の大作「阿」

が横3mに近いこの油彩は、二点で一対となっており、並べるとかなりの展示スペースを要する。佐渡島では度々展示場所や管理施設が変わり、近年は展示の機会に恵まれなかった。

この度の記念企画展に当たり現地に足を運び調査・交渉し、佐渡島の所有者から作品を借用し、当地の初公開となった。鬼の里北上で他地域の鬼とのコラボレーション。常設展の「東北の祭り」と合わせて、所蔵作品から日本各地のまつりの絵を選び展示する。画伯が魅せられた民俗のエネルギーをあらためて体感していただきたい。

また、特別展として博物館多目的室を会場とする「鹿踊(ししおどり)とメキシコのまつり」を同時開催する。

阿吽(あうん)  
日本のまつり  
佐渡の鬼太鼓(おんどこ)と

## 今後の記念事業のお知らせ

**記念企画展Ⅱ** 9月4日(土)~11月30日(火) 会場：美術館ほか

①利根山光人記念大賞受賞作品展……過去6回の大賞・部門賞受賞作品の展示

②利根山光人記念美術館のあゆみ展……企画展チラシ・大賞展ポスター・美術館通信・諸刊行物・市所蔵作品などの展示

**記念式典** 9月19日(日) 会場：美術館 「記念講演会」も予定しております

**巡回美術館** 7月12日(月)~ 会場：市内各地区交流センター(各会場12日間を会期とする)

**秋の美術館まつり** 9月25日(土) 会場：美術館屋外スペース

☆前期企画展「日々のすきまから 阿部夏希展」開催中。7月1日(木)まで

## ～@TONE美～ 「利根山光人を巡る旅」①

ひとりの作家の作品をまとめて鑑賞する機会は、たとえそれが世界的巨匠だとしても、通常何回もあるものではない。どこかに個人の記念美術館があることは極めて幸運だが、たまたま回顧展や企画展が開催されたとか、そういったチャンスに恵まれないとなかなかむずかしい。

ましてや壁画となると現地に足を運ぶしかなく、それらをまとめて鑑賞するなんてことは一生叶えられないテーマでもあろう。しかし、利根山画伯の壁画に関して言えば、ありがたいことにその夢が叶えられる場所がある。



陶板壁画「<sup>かたつむり</sup>蝸牛のごとく」  
(1984年、利根山光人制作)

— 聖徳大学附属取手聖徳女子中学校・高等学校食堂内 —

東京<sup>せいとく</sup>聖徳学園は千葉県松戸市にある聖徳大学をはじめ、幼稚園から大学院までを運営する学校法人である。本部を東京都港区三田に置くが、千葉県松戸市の大学、短期大学部、大学院をはじめ、千葉、東京、茨城の他地域にも幼稚園から小中高まで多数の系列校が設立されている。

学園の創設者である川並香順先生は、教育の基本として何事も“本物に接すること”が大切であり、校舎は箱を建てるだけでなく、芸術的に香り高い環境にしなければならないと説いている。この教育環境づくりには何人かの作家、

アーティストが名を連ねているが、特にこの考えに賛同し、「聖徳学園は壁画の園」と称されるまでの基礎を築きあげたのが、画家利根山光人であった。

この松戸キャンパス構内に壁画の制作を依頼され、その作品第一号が昭和40年(1965)に大学構内旧一号館に設置された「若さ」である。以降、関係諸学園、幼稚園には次々に画伯の大作が制作され、その技法も陶板壁画をはじめ、モザイクタイル、石彫、タペストリー、ステンドグラス、ガラスモザイク、ステンレス、緞帳…と多岐にわたり、それぞれの環境や生活空間にあわせた作品、計41点が設置されている。中でも川並香順記念講堂の緞帳「無限」の制作において画伯は、昭和56年(1981)第6回吉田五十八賞を受賞している。

利根山画伯晩年の制作の中心テーマ、「東北の民俗芸能」の大作とデッサンや水彩画などの小品から版画までも合わせて400点近い北上市の所蔵作品は国内屈指であろう。さらには北上駅コンコースでは横18mの陶板大壁画「日輪」(昭和56年制作)を鑑賞できる。完成から40年経っても色あせない、陶板の鮮やかさや迫力に魅せられ、ぜひ別の大壁画を見たいという欲求がわいた。この夢をかなえてくれるのが聖徳学園なのである。

思い立った私は一昨年12月のはじめに上京した。

(次号に続く)

専任研究員

### 令和3年度絵画教室 静物画を制作中です

4月にスタートした絵画教室も全10回中5回目を終え、計12名の受講生は現在油彩や水彩の静物画が完成間近です。受講生同士の交流も盛んで、互いに感想を述べ合い、美術史の講話にも熱心に耳を傾けています。アートと共にある生活を是非実践していただきたいです。

利根山光人生誕100年・記念美術館開館25周年記念事業

### 巡回美術館 in 各地区交流センター (利根山光人作品展)

画伯の油彩、水彩、版画作品数点を各地区の皆さんに間近で見えていただく記念企画です。ぜひ各地区交流センターに足を運んでください。

- 7月12日(月)～11月下旬まで
- 各会場12日間の展示
- 詳細は広報及びチラシにて

発行 北上市まちづくり部生涯学習文化課

〒024-0061 岩手県北上市大通り1-3-1 電話 0197-72-8304 FAX 0197-63-3121